






病害虫発生予察情報予報第 11 号 (2 月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	2 月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病害虫 (抜粋)
タマネギ	べと病	早生マルチ	並
		中晩生	並
	ボトリチス葉枯症		並
	白色疫病		並
	ネギアザミウマ		やや少
			 <p>タマネギべと病一次感染株</p>
<p>1. べと病 一次感染株 (越年罹病株) は2月~3月に発生盛期を迎えるので、圃場の見回りと罹病株の抜き取り及び圃場外での適切な処分を徹底する。また、主要な二次伝染が始まる2月下旬から、薬剤の定期的な予防散布を確実に実施する。</p>			
施設果菜類	<p>1. 病害全般 (灰色かび病、菌核病、すすかび病、葉かび病、べと病、うどんこ病、疫病、褐斑病) こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用して湿度を適切に管理し、植物体への結露を防ぐ。また、発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を組み合わせることで防除を行う。</p>		
イチゴ (本圃)	うどんこ病	並	 <p>ハダニ類</p>
	灰色かび病	並	
	ハダニ類	並	
	アブラムシ類	多	
<p>1. ハダニ類 下葉や葉裏まで薬剤が付着するように十分量を丁寧に散布するなど防除対策を徹底し、密度低下を図る。また、天敵を放飼した圃場でハダニ類の増加を認めた場合は、天敵に影響の少ない薬剤による防除を行う。</p>			
キュウリ	べと病	やや少	 <p>キュウリ退緑黄化病</p>
	うどんこ病	並	
	褐斑病	やや少	
	アザミウマ類	やや少	
	コナジラミ類	多	
<p>1. タバココナジラミ : 退緑黄化病 各地で退緑黄化病の発生が認められる。罹病株は伝染源となるので、圃場をよく観察して早期発見に努め、罹病株は圃場外に持ち出して適切に処分する。また、病原ウイルスを媒介するタバココナジラミの薬剤防除を低密度時から徹底するとともに、本虫の寄生する不要な葉は除去し、適切に処分する。</p>			

作物名	病虫害名 ^{注1)}	2月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
トマト	葉かび病	並	  黄化葉巻病 黄化病
	灰色かび病	並	
	コナジラミ類	多	
	1. コナジラミ類：黄化葉巻病、黄化病 幼虫・蛹の寄生の多い下葉を除去し、密度を下げたうえで、薬剤防除を実施する。ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分する。		
キャベツ	菌核病	やや少	 キャベツ菌核病
	黒腐病	並	
	チョウ目害虫	並	
	1. 菌核病 発病株に形成された菌核は次作の伝染源となるため、早期発見に努め、発病株は圃場から除去して土中に深く埋設するなどして適切に処分する。		
キク	白さび病	並	 ハダニ類
	アザミウマ類	並	
	アブラムシ類	並	
	ハダニ類	多	
	ハモグリバエ類	並	
	1. ハダニ類 多発してからでは防除が困難となるため、圃場をよく観察して早期発見に努め、低密度時からの薬剤防除を徹底する。		

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害総合防除計画」も参照してください。

病虫害総合防除計画掲載アドレス

https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji003101844/index.html

QR コード→



II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平成（過去 10 年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「佐賀県病害虫総合防除計画」をご参照ください（2 ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

- 1～2 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
4 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

2 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 2 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（令和 7 年 1 月 23 日）を基に、「気温：平年並」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%) 及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1 ヶ月予報における 2 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	40	30 (7.0℃)	30	並
降水量	30	30 (77.5 mm)	40	並

Ⅲ. 2月の予報

タマネギ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 20 圃場、防除員 4 圃場
調査日：1月20～21日

1. べと病

1) 予報の内容

【早生】発生量：平年並

【中晩生】発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1、図2)

【早生】発生株率：0% (平年0.004%、前年0%)、平年比：並 (±)

【中晩生】発生株率：0% (平年0.002%、前年0%)、平年比：並 (±)

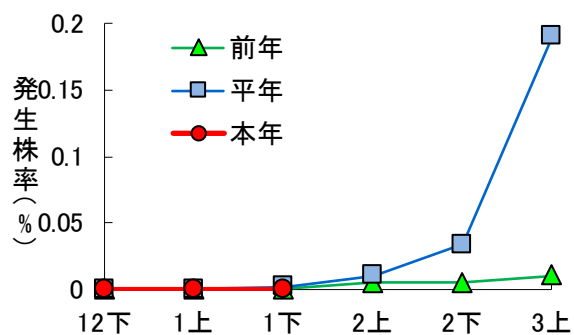
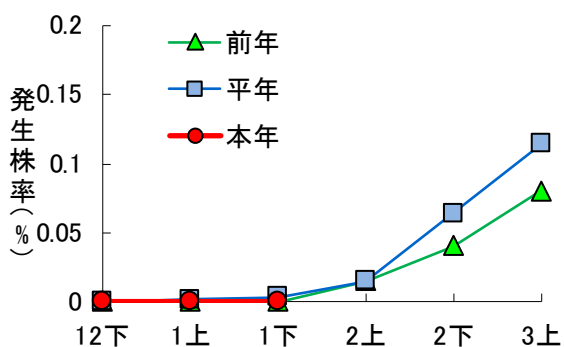


図1 早生タマネギでのべと病(一次感染株)の発生推移

図2 中晩生タマネギでのべと病(一次感染株)の発生推移

注1) 図1と図2の平年値は、2017～2024年の8年間平均。

注2) 3月上旬までの発生の主体である一次感染株の発生推移を示した。一次感染株の葉に形成された分生胞子が最初の二次伝染源となる。このため、一次感染株の発生量は、春期のまん延に直接的に関係する。

(2) 圃場の菌密度

平成25年以降、発生株率・発生圃場率ともに高い傾向が続いており、本圃の菌密度は高いと推察される。(±～+) (図3参照)

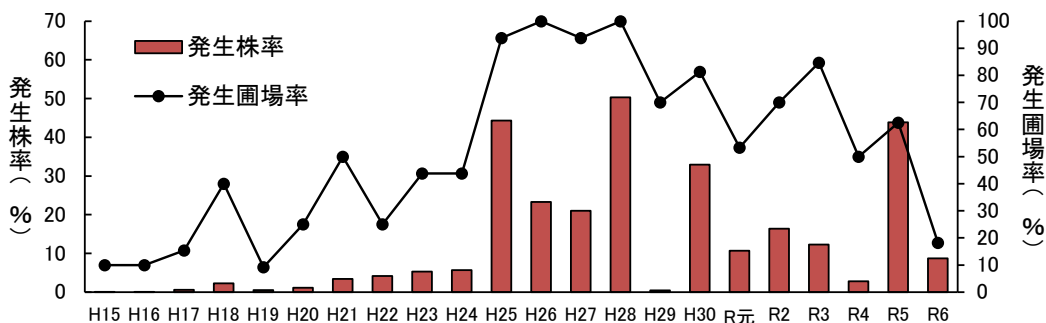


図3 タマネギ本圃でのべと病の発生圃場率と発生株率の年次推移 (4月下旬の定期調査結果)

(3) 2月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 一次感染株（越年罹病株）は2月～3月に発生盛期を迎えるので、圃場の見回りと罹病株の抜き取り及び圃場外での適切な処分を徹底する。
- (2) 主要な二次伝染が始まる2月下旬から、薬剤の定期的な予防散布を確実に実施する。

2. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.2%（平年1.9%、前年2.3%）

平年比：やや少（一～±）

(2) 2月の気象予報

気温は並で、並発生の条件（±）

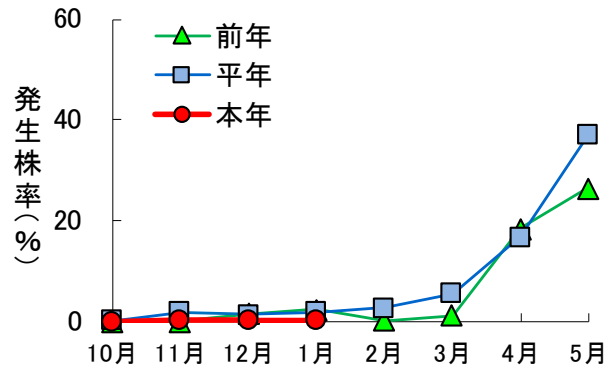


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生を認めた圃場では、低密度時から薬剤防除を行う。本虫は薬液のかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、薬剤はそれらの部位にもかかるよう丁寧に散布する。

イチゴ（本圃）

[【概要に戻る】](#)

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場

調査日：1月20～23日

1. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年2.2%、前年0%）

平年比：やや少（一～±）

(2) 2月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件（±）

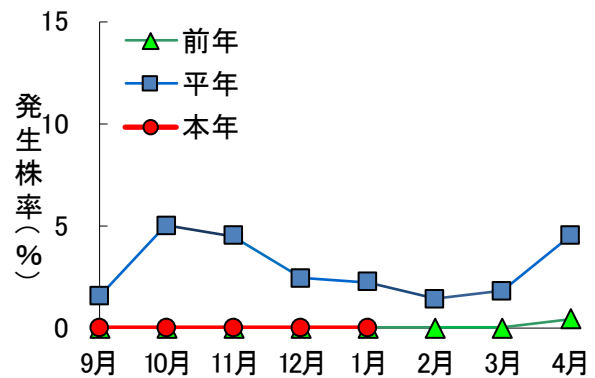


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を組み合わせる防除を行う。

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：15.3%（平年21.7%、前年24.0%）

平年比：やや少（-〜±）

※ただし、一部の圃場で多発生している

3) 防除上注意すべき事項

(1) 下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布するなど防除対策を徹底し、密度低下を図る。

(2) 天敵を放飼した圃場でハダニ類の増加を認めた場合は、天敵に影響の少ない薬剤による防除を行う。

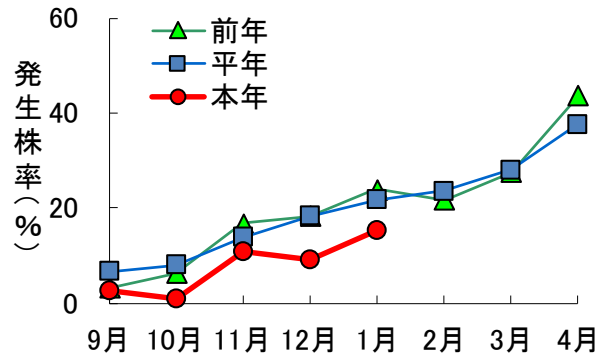


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：3.3%（平年1.0%、前年0.3%）

平年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期から防除を行う。

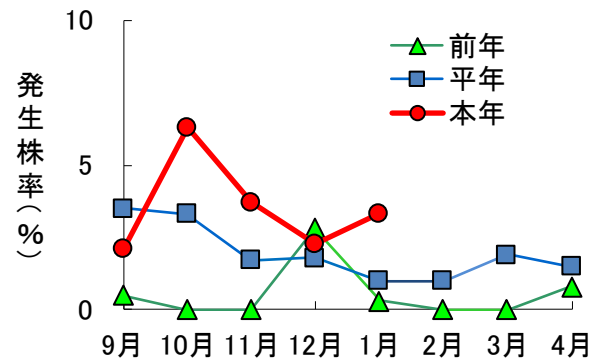


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ

[【概要に戻る】](#)

定期調査：3圃場、防除員4圃場

調査日：1月21～23日

1. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年2.0%、前年0%）

平年比：やや少（-〜±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) ミナミキロアザミウマは黄化えそウイルスを媒介するため、低密度時から薬剤防除を徹底する。

(2) 黄化えそ病の罹病株は伝染源となるので、圃場をよく観察して早期発見に努め、罹病株は圃場外に持ち出して適切に処分する。

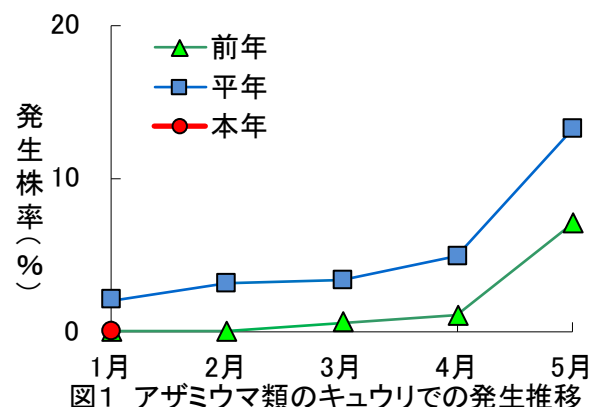


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：6.4%（平年1.7%、前年0%）

平年比：多〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) タバココナジラミは退緑黄化ウイルスを媒介するため、低密度時から薬剤防除を徹底する。
- (2) 本虫の寄生する不要な葉は除去し、適切に処分する。
- (3) 退緑黄化病の罹病株は伝染源となるので、圃場をよく観察して早期発見に努め、罹病株は圃場外に持ち出して適切に処分する。

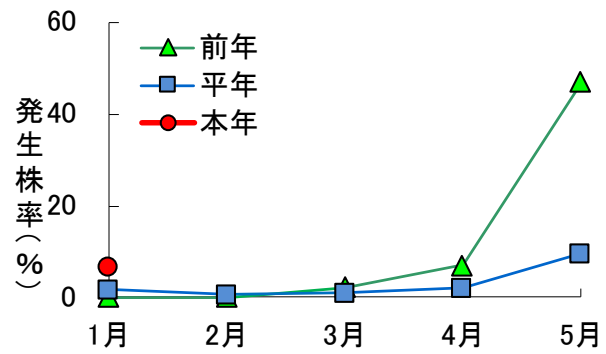


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

トマト

[【概要に戻る】](#)

定期調査：6圃場、防除員4圃場

調査日：1月20～22日

1. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年3.2%、前年1.5%）

平年比：やや少〈-〜±〉

(2) 2月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用して湿度を適切に管理し、植物体への結露を防ぐ。
- (2) 発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を組み合わせる。

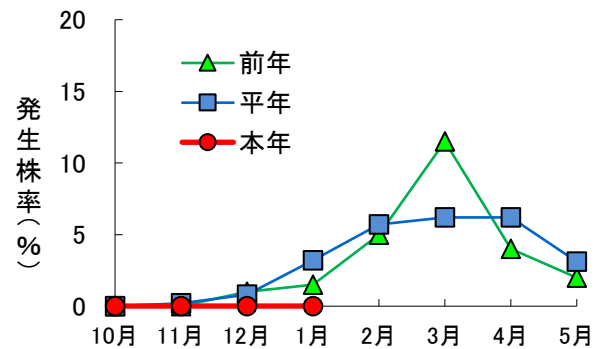


図1 トマト灰色かび病の発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：8.0%（平年2.7%、前年5.0%）

平年比：多〈+〉

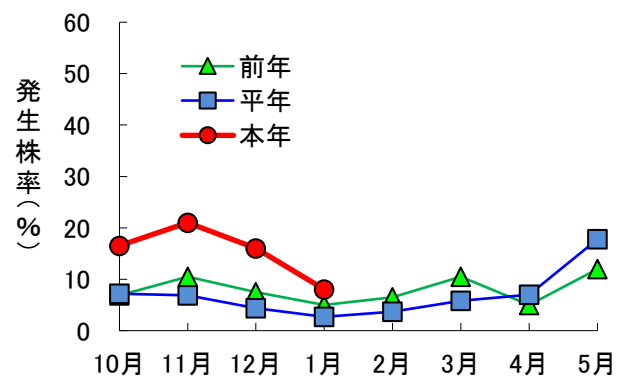


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫・蛹の寄生の多い下葉を除去し、密度を下げたうえで、薬剤防除を実施する。
- (2) ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分する。

キャベツ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 6 圃場

調査日：1月20～22日

1. 菌核病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0.8%、前年1.8%）

平年比：やや少（-～±）

(2) 2月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病株に形成された菌核は次作の伝染源となるため、早期発見に努め、発病株は圃場から除去して土中に深く埋設するなどして適切に処分する。

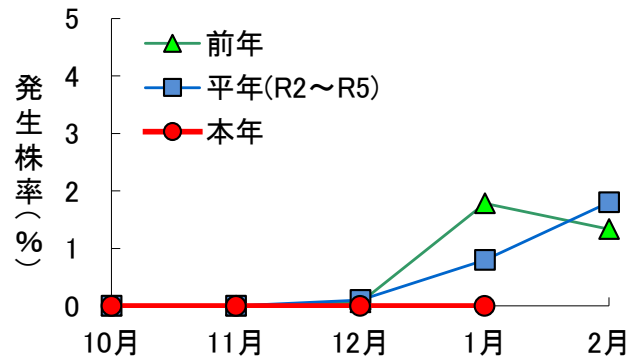


図1 キャベツ菌核病の発生推移

キク

[【概要に戻る】](#)

定期調査 7 圃場

調査日：1月20～22日

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並（±）

(2) 2月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病を認めたら、罹病葉は除去し、圃場外へ持ち出し適切に処分する。

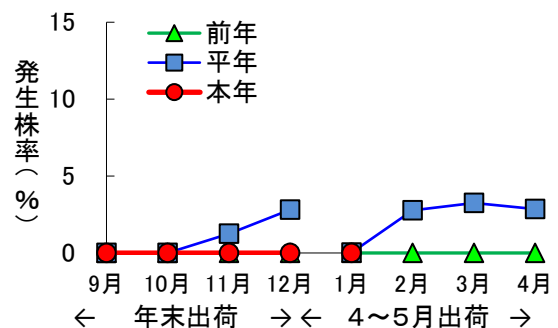


図1 キク白さび病の発生推移

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査

発生株率：1.4%（平年0.5%、前年0%）

平年比：多<+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発してからでは防除が困難となるため、圃場をよく観察して早期発見に努める。

(2) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう散布する。

(3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

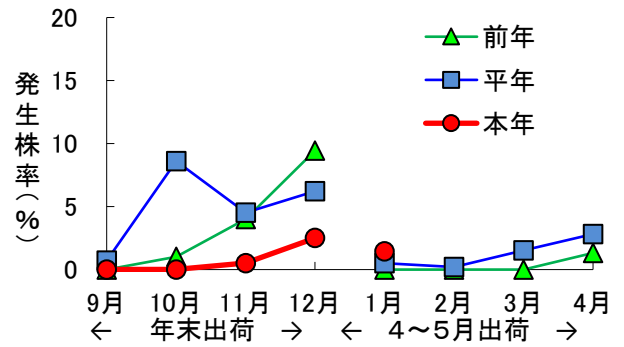


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

病虫害総合防除計画掲載アドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji003101844/index.html

防除セ QRコード



防除計画 QRコード

